

「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」受賞作品制作レポート

for(art)est

名古屋芸術大学 音楽学部 卒業生

山下 真澄

この度、「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」にて、最優秀賞を受賞させていただきました。このような素晴らしい賞をいただくことができ、大変嬉しく思っております。

今回応募した作品は、去年まで在学していた名古屋芸術大学で、卒業制作として制作したものです。大学では、作曲、録音、ピアノを主に学んでいたもので、それらを活かせるような作品にしようと思い、この作品を制作しました。

1. 作品のタイトル・イメージについて

この作品は、自然と人工物の融合がテーマになっています。曲のタイトルはフォレストの中にアートが入っているものになっていて、自然(forest)の中に人工物(art)がある景色を想像できるような曲、という意味をこめてつけました。私が青森に旅行に行った時に、ガイドさんの話で「川の中に標識が立っている景色」について知り、この曲の着想を得たからです。そのような景色を音楽で表現するために、弦楽器、ピアノの演奏などの生音とシンセサイザー等の電子音、録音した水や虫の声等の自然音を組み合わせています。

2. 作曲内容、モチーフについて

全体的に完全4度を積み上げ、音の高低を入れ替えた、機械的な雰囲気のマロディーをモチーフとして、繰り返し使用しています。

前半(~2:30)は都会的な、電子音の溢れた風景をイメージして制作、中盤は森の中のよう自然溢れる場所に、だんだんと人工物が流れ込んでくるようなイメージで制作しています。後半(4:16~)からは、それらが融合するようなイメージで、それまで機械的に響いていたモチーフが、暖かさのあるマロディー、ハーモニーになるよう制作しています。

モチーフとなるマロディー



■演奏編成およびマイクセッティング

演奏を録音するにあたって、バイオリン、ヴィオラ、チェロの演奏者に協力いただき、弦楽四重奏と、自分で演奏したピアノを録音しました。

1)弦楽器

・編成と使用マイク

Main	Schoeps MK2S	Violin1	Schoeps MK4
Main2	DPA 4006	Violin2	Schoeps MK4
LS-RS	DPA 4006	Cello	Neumann M149
		Viola	Schoeps MK4



弦楽四重奏全体を捉えるために、全指向性メインマイク、Schoeps MK2S と DPA4006 を配置しました。ミックス時には、音楽的にふさわしいいずれかのマイクを選び、使用しています。

サラウンド LS-RS のために、メインマイクと反対方向に向けた DPA4006 を配置しました。また、各楽器に一つずつのスポットマイクを配置し、メインマイクとタイムアライメントしています。

2) ピアノ

・使用マイク

Pf On	Schoeps MK4
Pf Off	DPA 4006



2組のマイクを使用し、それぞれハンマーからの直接音とピアノ全体の音を、収録後に可変できるようにしました。2組のマイクは、タイムアライメントしています。また、Lexicon 960を使用して楽曲の雰囲気にか合う響きを録音しました。

■その他使用機材

- ・インターフェース…RME OctaMic XTC, RME MADiface XT
- ・マイク…外での自然音の録音には iPhone6s を使用
- ・録音、編集ソフト…Pro Tools 10
- ・ミキシングコンソール…SSL SL4000G+

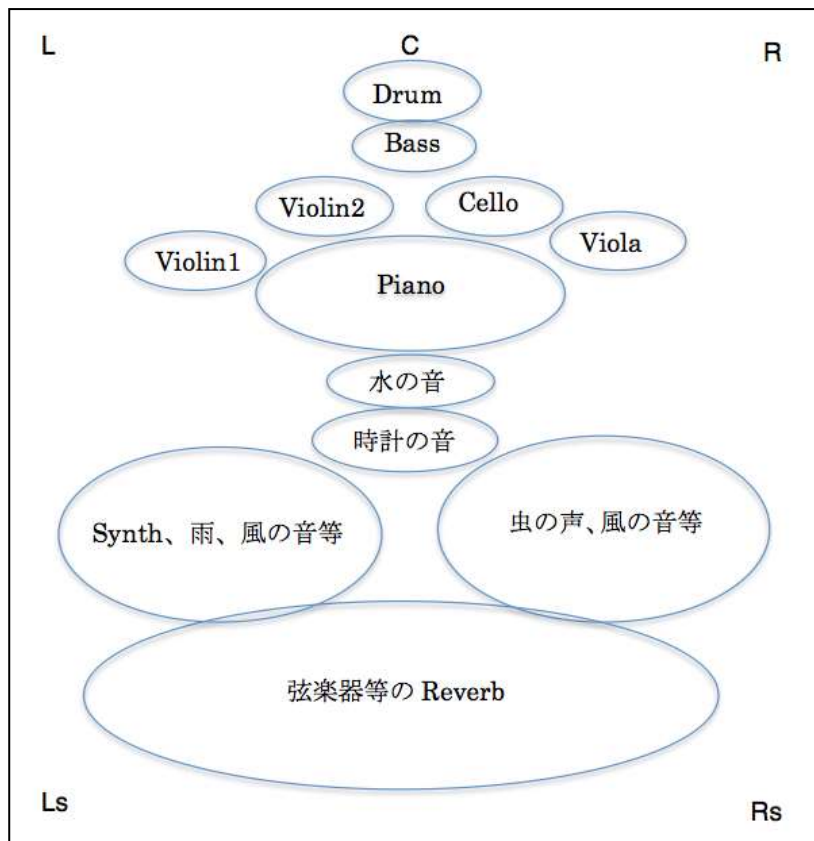
■演奏を録音、ミックスするにあたって気をつけたこと

最初に演奏していただいた時に、弦の演奏者の方々がとても表現豊かな演奏をされていてとても感動したのですが、曲の前半の人工的な部分で、そのイメージがあまり感じられないという問題点がありました。そのため、自分の曲のイメージと、場面ごとにどのような音色が欲しいかを演奏者に伝えたところ、演奏の雰囲気が大きく変わり、理想の演奏を録音する事が出来ました。

ミックスをする際には、リバーブや、使用するマイクを場面ごとに変えることで、さらに音色に変化をつけました。その結果、最初は人工的な雰囲気ですが、後半になるにつれて表現も豊かになり、景色が広がるような流れができたように思います。

全体のミックスの段階では、録音した演奏、電子音、自然音と、色々な音があったため、うまく混ざらず苦労しましたが、サラウンドを効果的に使うことによって、様々な音を合わせて一つの空間を作ることができたように思います。

4. 音像定位図



弦楽器録音時、リア用に録音した音や、その他の音の残響音もLS、RSから出す事で、より臨場感を感じられるよう意識しました。

5. 作品の良かった点について

曲の展開、電子音の使い方に関して、当初のコンセプトであった「自然と人工物の融合」を上手く表現出来たと思っています。

また、弦楽器の録音をする際、コンセプトの説明を含め演奏者にオーダーしたことで、自分のイメージとほとんど相違のない音で録音することができました。それぞれのシーンに合わせた音を録音することができたため、全体的にコンセプトに合った風景を思い浮かべられる作品になったように思います。

ミックスに関しては、サラウンドを効果的に使うことができました。電子音や雨風の音等について、どこから出すのが効果的なのかを検討して、ある時は音楽と対比し、ある時は、同化するように心がけ、制作する事が出来たと思います。

6. 今後の改善点

自然音の外での録音の際、雑音が入ってしまう事が多く、編集にかなり時間がかかってしまいました。フォーリーサウンドを使用する、また、外で録音をする際に適切な機材を考え、準備する等して、様々な音での表現が出来るよう研究していきたいと思います。

また、リバーブやディレイなどの音響効果を上手く扱うことができれば、もっとサウンドにまとまりや、奥行きを出すことが出来ると思うので、今後意識して制作していきたいです。

7. コンテストを終えて

今回この「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」に応募するにあたって、自分の作品と改めて向き合い、良いところや問題点を再確認することができました。また、とても良い評価もいただけて、本当に嬉しく思います。これからも自分の得意分野を伸ばしていき、審査員の方々にいただいたアドバイスをもとに、更に良い作品が制作できるよう、頑張っていきたいと思っています。

■執筆者プロフィール

山下 真澄

1995年、愛知県生まれ。

名古屋芸術大学 音楽学部 音楽文化創造学科

サウンドメディアコース 卒業生

